



# PRESS RELEASE



平成 20 年 1 月 29 日

各 位

東京都千代田区外神田四丁目 14 番 1 号  
株式会社 ア ク セ ル  
代表取締役社長 佐々木 譲  
(JASDAQ・コード 6730)  
問い合わせ先  
取締役 管理グループ 千代進 弘  
ゼネラルマネージャー  
電 話 03-5298-1670

## 平成 20 年 3 月期業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ

平成 19 年 4 月 26 日付当社「平成 19 年 3 月期決算短信（非連結）」において発表いたしました平成 20 年 3 月期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）の業績予想及び期末配当予想を下記のとおり修正いたします。

### 記

#### 1. 通期業績予想の修正等

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり期末配当金
前回予想 (A)	10,000	4,200	4,215	2,550	5,000 円 (10,000 円)
今回修正 (B)	12,400	5,240	5,269	3,180	7,600 円 (12,600 円)
増減額 (B-A)	2,400	1,040	1,054	630	2,600 円
増減率	24.0%	24.8%	25.0%	24.7%	—

(注) 1 株当たり期末配当金に記載の ( ) の数字は、年間配当予定額です。

#### 2. 修正理由

当期の遊技機器市場におきましては、過年度に行われたパチンコ機及びパチスロ機等の遊技機器に係る規則改正の影響による同市場の縮小懸念が持たれておりましたが、遊技機器の製造という観点では、特に上期におけるパチスロ機に係る旧基準適合機から新基準適合機への入替え需要を受けた活発な製造動向と当第 3 四半期における大型の液晶表示装置を搭載したパチンコ機の積極的な製造動向が見られ、パチンコ機においては当第 4 四半期以降もこのような製造動向が継続するものとの見通しとなりました。

以上のような市場環境の中、描画表示用半導体製品の従前主力製品でありました「AG-2」シリ

ーズから高解像度液晶に対応する新たな主力製品である「AG301」への移行が当初の想定を上回る進捗となり、当第4四半期以降も同様に推移するものと分析しております。

上記のような推移を示して「AG-2」シリーズから「AG301」への移行が進んだ場合、当初想定していた通期における40%程度の移行から50%程度まで移行比率が高まるものと想定され、「AG301」の販売単価が「AG-2」より高いことなども要因となり今回売上高を修正するに至りました。

また、音源用半導体製品やLED制御用半導体製品につきましても、当第3四半期末までの進捗と受注状況等を総合的に勘案すると概ね当初計画を上回る数量になるものと分析しております。

以上の要因により、当社の売上高は、前回予想100億円に対し124億円（前期比56.7%増）となり24億円の増加を見込みました。

一方、損益面では、製品販売数量の増加を受けた仕入原価の増加が見られましたが、販売費及び一般管理費に関しましては当初計画並みの水準に留まったことから、営業利益は前回予想42億円に対し52億4千万円（前期比33.6%増）となり10億4千万円の増加を見込みました。

経常利益につきましては、有価証券利息等の見直しを行いました結果、前回予想42億1千5百万円に対し52億6千9百万円（前期比33.9%増）となり10億5千4百万円の増加を見込んでおります。また、当期純利益につきましては、前回予想25億5千万円に対し31億8千万円（前期比33.0%増）となり6億3千万円の増加を見込んでおります。

なお、上記に伴い、当初1株当たり期末配当金を5,000円（年間配当金10,000円）と発表しておりましたが、今回7,600円（年間配当金12,600円）に修正しております。当社におきましては、配当額の算定につき配当性向主義を採用しており、当期の目標配当性向性向である配当性向50%を基準に配当予定額の見直しを行ったものであります。

### 3. 参考：前期の実績

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり年間配当金
通期（平成19年3月期）	7,911	3,923	3,936	2,390	7,600円（注）

（注）うち中間配当は3,600円です。

以 上